



### 全国大会に参加して

松本 賢  
(昭島市立拝島中学校)

平成二十九年十一月九日・十日、第五十回記念大会全国中学校社会科教育研究大会・第三回中国プロック中学校社会科教育研究大会島根大会が開催された。

基調提案では、主題である「未来を拓く社会科学習」深い学びを「実現する思考力・判断力の育成」について、どのような研究と実践が行われたか、またその成果と課題が発表された。

今回の研究は、変化の激しい社会を生き抜き、新しい社会的問題に対して、自分なりの見方・考え方を生かして、より良い社会を築こうとする生徒を育てることを目指している。そのために、批判的思考を働かせ、思考力・判断力を確かな力とする学習を充実させる。その思考力・判断力と社会的な見方・考え方が、相乗的に影響を及ぼしながら、深い学びが実現する。思考力・判断力を段階的に分析・整理した。「具体的思考力・判断力」「抽象的思考力・判断力」「創造的思考力・判断力」と深まっていき、最終的には、価値的知識を用いて、複雑な社会問題に対して、対立する概念や価値のすり合わせをすることが出来る「実践的

思考力・判断力」をめざす。そして、三年間を見通した意図的・計画的な指導を行うことで育成できるといふ仮説が想定された。

実際の授業では、(一)「単元の構造化」と「単元を貫く問い」の設定(二)思考力・判断力を育成する学習活動の工夫(三)評価活動の工夫を研究の柱として、授業を進めた。三分野すべての授業で、「単元を貫く問い」と思考力・判断力を用いて、段階に応じた知識の習得を目指した単元構成図が作られている。

記念講演では、安来市加納美術館名誉館長、加納佳世子氏による「次世代に託す 平和への想い」画家「加納莞菴」の講演が行われた。加納莞菴は、島根県出身の洋画家で、戦後、戦犯赦免を訴える嘆願書をフィリピンのキリノ大統領に送り続け、その結果、日本人戦犯が全員釈放された。その嘆願書のなかで、「日本軍によって虐殺された大統領の愛児の名において憎しみを愛に変えることこそ神に帰依する行為である」と嘆願し、実現を果たしている。本講演は、莞菴の人となりを感じられたとともに、恒久平和の実現への可能性も感じることが出来るものであった。

私は、歴史的分野分科会の公開授業から研究協議まで参加した。分野別提案では、基調提案で出された思考力・判断力の分析を、歴

史的分野で捉える思考力・判断力として捉え直し、公民的分野での「実践的思考力・判断力」の育成の礎とすることが、提案された。

公開授業の「成長する民衆」の授業では、どうして一揆を起こすことができるようになったのか予想・追究した結果を本時で意見交流し、関連付けることで、民衆の成長が見られた時代かという単元を貫く問いの答えを話し合う授業であった。「広がる貨幣経済」の授業では、これまでの改革の学習から、幕府政治を続けるためにはどのような政策をすべきか話し合い、幕府政治が行き詰まった要因は何かという単元を貫く問いの答えを話し合う授業であった。

また、研究発表では、博物館と協力しながら、身近な地域における歴史的事象を教材化した「未来を拓く社会科学習」古代出雲から我が国の歴史を考える学習を通して」と、都中社研歴史専門委員会の「思考力・判断力・表現力を育成する歴史学習の指導の在り方」が発表され、教科調査官、藤野敦先生による講評が行われた。

今回、初めて他県で行われた全国大会に参加したが、これまで行ってきた歴史学習における思考力の研究を深めるとともに、実践・研究を進めていこうという気持ちを変えて感じることができた。

### 示範授業を参観して

清澤 公子  
(葛飾区立水元中学校)

さる一月三十日(火)、本校で東野茂樹主幹教諭の示範授業が行われました。地理的分野の大項目(2)中項目ウの「日本の諸地域」の学習で、本時は「近畿地方」についての授業が行われました。今回は図書室を会場とし、タブレットPCの画面を表示できる電子黒板や可動式黒板を使用している授業は生徒の視覚に働きかけることで理解しやすいう環境づくりがなされていきました。

授業の導入では本時の課題「近畿地方では、この地域の歴史を生かしながらどのように産業が発展してきただろうか。また、今後も持続可能な社会づくりをするためにはどうすればよいか。」を把握するため、400年以上の歴史をもつ産業、持続可能な社会づくりの事例として世界農業遺産の「みなべ・田辺の梅システム」の説明が教師よりありました。その中で教師が実際に備長炭や南高梅を生徒に提示することで、生徒の関心・意欲は一気に高まりました。さらに地図帳で和歌山県みなべ町の位置や地形の確認、またどのような農業が行われているか予想し、その後電子黒板に表示された「地理院地図」でみなべ町の位置と地形の特徴を生徒がプレゼンしました。その後、4人ずつのグループに分かれました。グループ内の一人

一人が近畿地方を四分割した「A 北部」、「B 中部(大阪大都市圏)」、「C 中部(大都市圏のまわり)」、「D 南部」のいずれかの地域を担当し、既習事項を振り返りながら歴史的背景を中核とし、産業と有機的に関連付けて地域的特色をまとめる活動になりました。その際、「知識構成型ジグソー法」を用いたことで、同じ地域をまとめた生徒間での意見交流や別の地域をまとめた生徒間での意見交流ができ、それによって「主体的・対話的な活動」の実践がなされていくことが印象的でした。意見交換の後には、各班でホワイトボードにまとめ、全体の前で発表しました。

示範授業後に行われた研究協議では元全国中学校社会科教育研究会会長の赤坂寅夫先生より、各グループでまとめた示範授業への質問、意見、良かった点を踏まえて、授業力の六要素や主体的・対話的で深い学び、そして次期学習指導要領についてなどをご教授いただきました。次期学習指導要領の移行期間が来年度から始まる今、「主体的・対話的で深い学び」を実践できる授業について改めて考える機会となりました。最後に、アクティブ・ラーニングを日頃から実践され、今回も良き実践例を示していただいた東野先生、研究協議で今後の授業のありべき姿をご教授いただきました赤坂先生に心から御礼を申し上げます。またこのような機会を与えてくださった都中社研の先生方にも感謝申し上げます。